

環境報告書

2024



静岡製機のご案内

社 是

創意を発揚し 社会に進歩と安定を

会社概要

・ 静岡製機株式会社

創業：1914年

資本金：1億5,355万円

本社：静岡県袋井市諸井1300番地

従業員数：313名（2024年度）



事業内容

・ 農産物関連機器

穀物乾燥機 共同乾燥調製施設 精米関連機器 玄米低温貯蔵庫
白米保冷庫 品質測定機器 穀物水分計 多目的電気乾燥機
CO²施用機

・ 業務用熱機器

赤外線ヒーター 電気ヒーター
熱風スポットヒーター



・ 環境配慮機器

冷風機 加湿機
などの開発、製造、販売

14001 の取り組み

環境方針

静岡製機は、『環境方針』を基に、環境保全に積極的に取り組み日々操業しています。

環境方針

静岡製機株式会社は社会（世界市民）の一員として、美しい地域・地球を守り、ともに発展していくことを目的として、当社が送り出す農産物関連機器、業務用熱機器、環境配慮機器などの製品及びサービスに全社一丸となって、可能な限り地球環境に配慮した設計・開発・購買・製造・物流・販売・メンテナンスを実施し、これを永遠に継続することを目指して、ここに環境宣言します。

1. 当社は事業活動において、ライフサイクルの視点に立って継続的に以下の環境保護に努めます。
 - ・気候変動の緩和及び気候変動への対応
 - ・持続可能な資源の利用
 - ・環境汚染の予防
 - ・生物多様性及び生態系の保護
2. 当社は事業活動において環境関係法令及びその他の順守義務を満たし、利害関係者のニーズ及び期待に応えます。
3. 当社は方針達成のために以下に関わる目標を定め、全従業員で改善につとめます。
また、これらについて定期的に見直しをします。
 - ・業務効率向上、生産性向上や品質向上による環境への好影響
 - ・環境に配慮した開発・設計・サービスによる環境への好影響
4. 当社の全ての従業員がこの環境方針及び環境マネジメントシステムを自覚し、環境パフォーマンスを向上するために環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

—この環境方針は一般の人にも入手可能とします—

2017年4月1日
静岡製機株式会社
代表取締役社長 鈴木 直二郎

ISO14001 認証

静岡製機は、静岡県袋井地区の事業所において、2001年7月、認証をいたしました。現在、全国すべての拠点で認証取得しております。

複製:掲示用

登録証

登録番号: E0804
登録日: 2001年07月13日
再認証日: 2019年01月30日
変更日: 2021年02月10日
有効期限: 2022年01月30日
(ASR登録番号: 2012年10月12日)



静岡製機株式会社

管理部
静岡県袋井市山名町4番地1

貴社の環境マネジメントシステムは、当社の審査の結果

JIS Q 14001:2015 (ISO 14001:2015)

の要求事項に適合していることを証明します。

登録範囲
農用機械器具、暖房用機械器具、環境配慮機械器具、精密測定器具、
食料品加工機械器具の設計・開発、製造並びに販売、付帯サービス
(設計・開発の技術指導、修理・点検)

本認証は、上記登録範囲に限り有効とします。
本認証は、環境マネジメントシステムが審査登録事項に適合して維持されていることを条件に有効とします。
本登録証は、付箋書と併せてご覧ください。



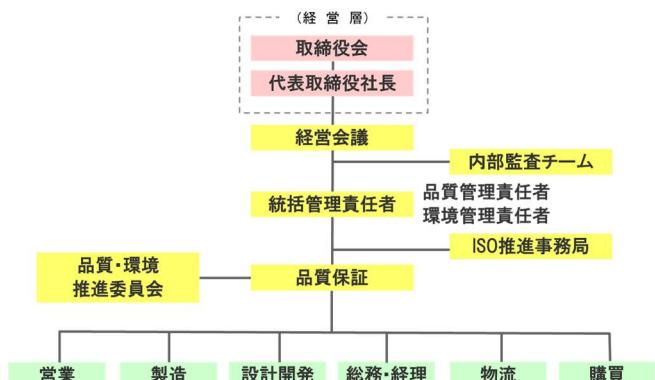
エイエスアール株式会社
東京都中央区日本橋大伝馬町2-7
上級経営管理者

朝倉 善智

環境マネジメント推進体制

静岡製機は、製品およびサービスの各プロセスに責任者を任命し各プロセスの課題、法的要件、環境側面などを精査し、環境負荷軽減に効果的な目標を設定し、活動を行います。

2017年4月に、ISO-14001:2015 規格認証を機にISO-9001:2015との統合マネジメントシステムとしました。推進体制もQMS、EMS両方をカバーするものとしました。



環境活動のあゆみ

2000 年	本社地区、ISO14001 認証取得プロジェクトキックオフ
2001 年	高尾事業所の焼却炉を廃止 本社地区、ISO14001 認証取得
2002 年	浅羽工場に LPG ボイラーを設置し重油ボイラーを廃止 本社、柳原の 2 事業所で焼却炉を廃止
2003 年	技術部で環境適合設計ガイドラインを作成 低温貯蔵庫断熱パにネル発泡剤を代替フロンに変更
2004 年	基板、廃棄 OA 機器、蛍光灯、乾電池のリサイクル処分委託を開始 海外輸出向ヒーター、RoHS 規制対応
2005 年	鉛及びクロム含有塗料の使用を全面禁止 ISO14001 - 2004 版規格に更新
2006 年	浅羽工場、温室効果ガス排出量の調査 浅羽工場、T B Z 導入
2007 年	県道美化活動にて社団法人「小さな親切」運動本部より表彰
2008 年	浅羽工場、プレス設備の防音壁の設置
2009 年	環境省より広域処理の認定を受ける
2010 年	㈱クボタ様向け「玄米保冷庫」「白米計量機」「生ごみ処理機」について RoHS 規制対応 浅羽工場、電着塗装から粉体塗装に更新 浅羽工場、溶剤塗装設備を廃止
2011 年	袋井市主催「第 8 回袋井市内環境企業交流会」の主会場提供及び見学受入会社として参画
2012 年	ISO 審査会社を ASR 株式会社に変更
2013 年	浅羽工場、変電設備及び B ライン粉体塗装設備更新 浅羽工場、デマンド監視システム導入
2014 年	浅羽工場、第 0 変電トランスを更新
2015 年	浅羽工場、照明 LED 化実施 浅羽工場、生産 B ライン塗装水切乾燥設備更新
2017 年	ISO14001 - 2015 年度版移行、品質環境統合マネジメントシステム導入
2018 年	SO14001 - 2015 年度版、全国すべての拠点で認証取得 浅羽工場、生産 A ライン塗装水切乾燥設備更新
2021 年	環境配慮型新本社屋完成、営業開始。(BELS : 5つ星、100%『ZEB』認証取得)
2023 年	『 SDGs への取り組みと約束 』を自社ホームページに公開



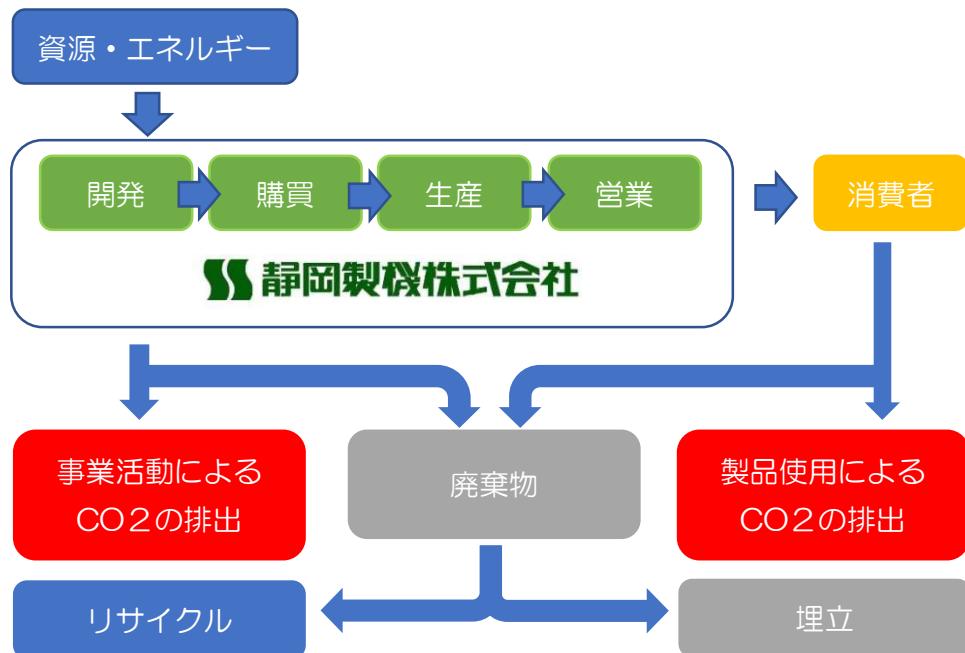
事業活動と環境

事業活動と環境との関わり

原材料から開発、生産、販売、使用、廃棄といった製品のライフサイクル全般にわたって、環境に対してどのような影響があるのかを評価し、環境負荷低減への取り組みを検討、環境に配慮した製品の開発・生産及び販売を目指していきます。

製品ライフサイクルに関する環境影響

資源の枯渇	大気汚染	土壤汚染	廃棄物の排出
地球温暖化	水質汚染	騒音・振動・悪臭	フロンの排出



環境負荷低減への取り組み

【開 発】

環境配慮製品の開発

- ・省エネ設計
- ・省資源設計
- ・有害物質削減設計

【購 買】

環境配慮部材の調査
環境配慮部材の調達

【生 産】

工場の省エネ推進
有害物質管理
廃棄物の削減

【営 業】

省エネ製品拡販による CO2 排出量削減
高燃費営業車導入による CO2 排出量削減

新社屋のご案内

省エネと創エネを組み合わせた
人と環境にやさしい建物です。



省エネと創エネを組み合わせ、消費エネルギーを実質ゼロに。
この新社屋を新しいスタートラインとして、未来に続くものづくりに一層まい進してまいります。



FEATURE

光風熱を巧みにコントロール

省エネ・創エネに安全を加えた、ZEB+BCPコンセプト。

光をコントロール

- 太陽光発電パネル
- 高効率照明
- センサー付LED照明
- 大きな窓で日光利用

熱をコントロール

- 高断熱化
- 外壁など外皮性能の向上
- 高効率エアコン
- 日射遮へい型複層ガラス

風をコントロール

- 自然換気の活用
- 高性能換気システム

防災・BCP対策

- 免震構造
- 非常電源切替設備

省エネ効率101%を実現。人と環境にやさしい新世代のオフィスビルです。



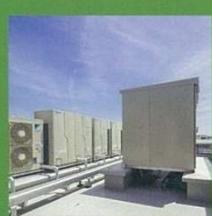
太陽光発電

ZEB100%に対応する大容量の太陽光パネルを、社屋屋上に設置。災害時には非常用電源として、BCPをバックアップします。



省エネ照明

すべての照明に省エネタイプのLEDを採用。さらに照度センサーを組み合わせ、常に快適でムダのない光量に調節しています。



空調

エアコンのある部屋に全熱交換機を採用。外気を取り入れる際に、室内の空気と熱交換を実施して、空調の負荷を低減します。



高断熱化

屋根や外壁、窓から侵入する日射を抑制し、建物への熱の出入りを抑える高い外皮性能を実現。省エネの基本となる構造です。



BEMS

建物全体のエネルギー収支を「見える化」。社員の省エネ意識を高め、さらなるエネルギー削減やコスト低減につなげます。



免震構造

建物と地盤の間に免震装置を設置し、建物に作用する地震エネルギーを低減。人命を守り、事業への影響を最小限に抑えます。

【開発】環境配慮製品の開発

農産物関連機器

れいぎ
冷技を尽くす。 愛されて25年。進化する「さいこ」の実力。

お米の美味しさ・鮮度を保ちます。 虫やカビからも、守ります。

お米は梅雨時から夏場になると、呼吸が活発になり、大切な食味が落ちてしまいます。さいこは「低温・低湿」(低温15℃以下)でお米の呼吸を抑え、庫内湿度を低湿(55%~75%)にすることでおいしさ・鮮度を守ります。

庫内温度を低温に保ち、虫・カビの繁殖をおさえます。またパネル厚60mm(底板60mm)のボディで「低温・低湿」のお米の快適環境を守ります。

農産物低温貯蔵庫
さいこ GBX

玄米保冷時
従来比 最大 40%省エネを実現!!^{※1}

「周囲温度35℃」の厳しい環境下でも2~20℃の温度設定が可能。
野菜・果物の一時保冷に使える高温モード搭載。^{※2}



業務用熱機器

遠赤外線電気ヒーター ホカット^e



安全省エネ遠赤
裸火でない安全暖房!

工場
倉庫
休憩所
店舗入口
各種保護

環境配慮機器

地球にやさしい緑風

気化式
冷風機
RKF series
711・723・506・406・306
—NEW—



【生産】工場の省エネ推進

静岡製機は、工場の様々な設備を見直し、計画的に投資を行い、さらに環境にやさしく、労働者にも優しい工場を目指しています。

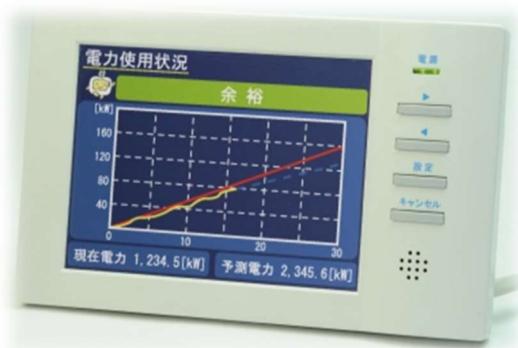
【LED 照明器具】



【よしずすだれによる遮光】



【デマンド監視システム】



【粉体塗装ブース】



【タレットパンチプレス機】



【ベンディングマシン】



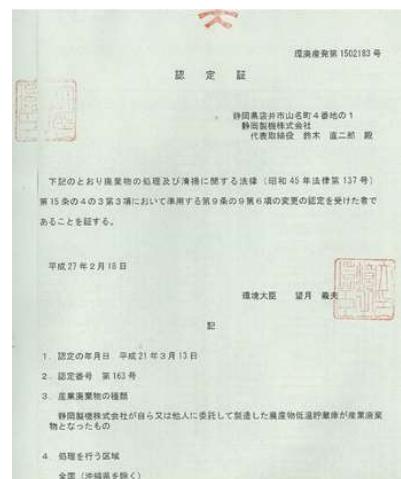
【営業】CO2 排出量削減活動

静岡製機では、営業活動でも CO2 排出量削減に貢献することを考えています。また、販売した、フロン含有機である玄米保冷庫等は、環境省より廃掃法特例である広域認定を受け回収・処分を行っています。

【電気自動車の採用】



【廃掃法特例・広域認定証】



【遠赤外線乾燥機の販売】

乾燥機の主要部・バーナー部の燃焼状態の最適化、それに合わせ機体全体の制御部、可動部などを見直すことにより省エネ性能が向上しています。

最新の乾燥機を1台販売しお客様が1年間使用した場合、2005年当時と比較すると60～360kgのCO₂の削減を達成しています。(乾燥機のサイズによってCO₂削減量が変動します。)



【遠赤外線ヒーターの販売】

赤外線を放射する放熱管の表面積を増やしたことにより、従来機より暖房性能と省エネ性能が向上しています。

最新の遠赤外線ヒーターを1台販売しお客様が1年間使用した場合、2005年当時と比較すると315kgのCO₂の削減を達成しています。



【業務用ヒーターの販売】

乾燥機の主要部・バーナー部の燃焼状態の最適化により省エネ性能が向上しています。

最新の業務用ヒーターを1台販売しお客様が1年間使用した場合、2005年当時と比較すると440kgのCO₂の削減を達成しています。



【気化式冷風機の販売】

同等能力の業務用スポットクーラーと比べ、電気使用量が少ない気化式冷風機は、冷媒としてフロンガスも不使用と大変環境にやさしい製品です。

同等能力の業務用スポットクーラーを1年間使用した場合と比較すると350kgのCO₂の削減を達成しています。

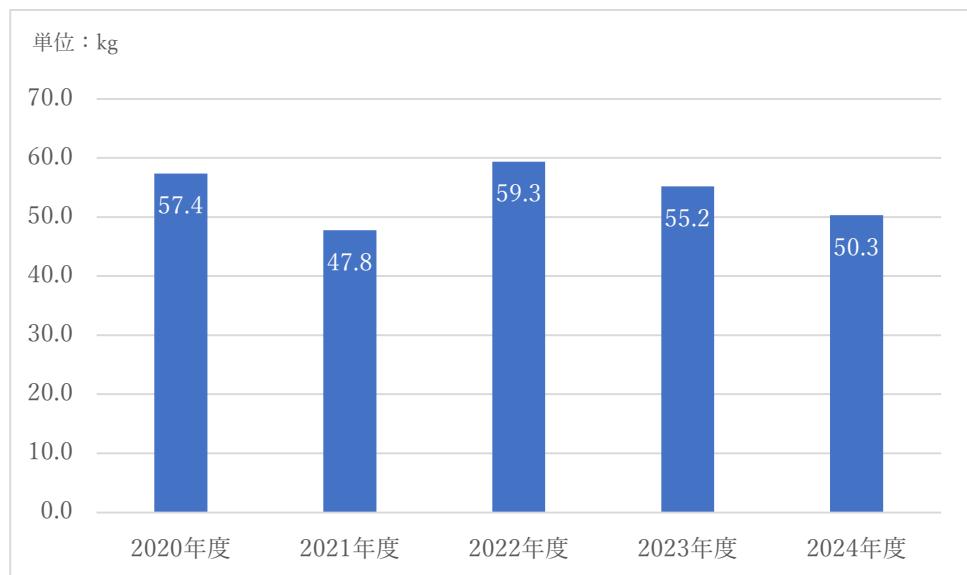


CO2 排出量削減実績

【工場省エネ、生産効率向上による CO2 排出抑制実績】

1台の製品を完成させるまでに消費したエネルギーを CO2 量へ換算したデータです。この指標は原単位と呼ばれ、値が小さいほどCO2発生の少ない生産活動が行われたと評価されます。

2020 年度は、コロナ禍の影響により減産、その結果として CO2 排出量が増加しました。ウイズコロナに転換した 2021 年度から生産量も回復傾向にあり、それに伴う形で CO2 排出量も減少となっていますが、年々厳しくなる夏の酷暑に対し職場環境を維持する空調などの電力消費の増大など、改めて考えなければならない課題も出てきています。

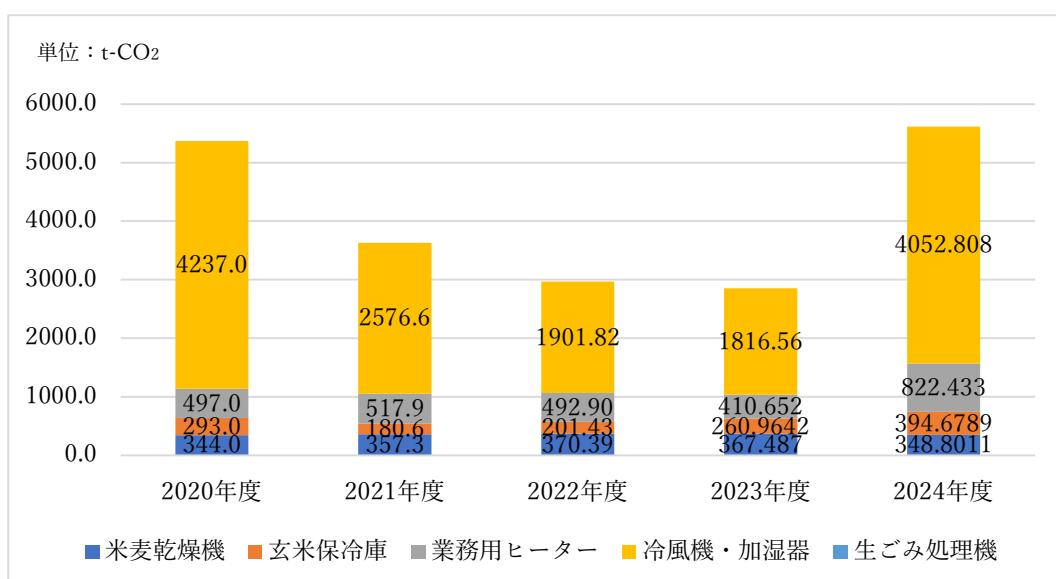


【省エネ製品拡販による CO2 排出量削減実績】

最新の環境配慮製品を販売することで従来機等と比較し CO2 の発生を抑えることが出来ます。こちらは値が大きいほど CO2 の排出を抑制できたと評価されます。

コロナ禍の影響により販売活動の縮小を余儀なくされ、特に冷風機はその影響を受けてしまいました。

2024 年度は酷暑の影響で冷風機のお求めが多くなり、CO2 排出量抑制の貢献の一翼を担うことができたと思います。



社内外のコミュニケーション

環境マネジメントシステム内で要求されるコミュニケーションについては、社内では品質環境推進委員会を通じて様々情報が共有されます。社外のコミュニケーションは、毎年、創立記念式典日に合わせ、工場近隣にお住いの皆様を招いての工場見学・意見交換会を開催しています。



地域貢献

静岡製機は、工場周辺の美観維持へ協力するため、定期的に清掃作業を行っています。また、袋井市の大規模イベント『ふくろい遠州の花火』大会には当日運営スタッフ、大会終了後の清掃ボランティアと多くの従業員が参加し大会を盛り上げています。地元自治会、教育機関には創業100周年を記念し環境配慮型業務用熱機器を寄贈いたしました。



緊急事態の対応

不測の事態に備え、環境マネジメントシステムでは、緊急事態の特定とその対処方法が求められています。静岡製機では、環境マネジメントシステムの運用の中で手順を設け、社内での事故および緊急事態を想定し定期的に手順のテストを行っています。





静岡製機株式会社